



9 南阿蘇村が大好きです

17 南阿蘇中学校体育大会

南阿蘇中学校（坂梨正文校長）の体育大会が同校グラウンドで開催されました。

白水・久木野・長陽中学校統合後初の開催となった体育大会は、台風16号の影響で天候が心配されましたが、絶好の体育大会日和となりました。

第1回目の記念となる今年のスローガンは、「進～届けよう南阿蘇に力を～」。「進」には、「前進・進化・突進」、サブテーマ「届けよう南阿蘇に力を～」には、「熊本地震で大きな被害を受けた村に自分たち中学生が元気や力を届けよう」という思いが込められています。

生徒会の西原あかりさん（3年生）が新校旗を掲げ、全校生徒が入場。開会式で生徒代表の河津奏人君（3年生）が、「南阿蘇中学校として初めての体育大会で新しいものを作り出すのが大変だったこと、地震で被害を受け、仮設住宅や寄宿舎などで生活する人がいるという不安定な中で体育大会を開催するのは大変だったこと。この2つの壁を前に全校生徒が団結し、1つ1つ壁を乗り越えてきました。ご来場の皆さまに必ず、私たちの元気や力、笑顔を届けられる体育大会にします」とあいさつしました。

競技では、各学年による団對抗徒走やリレー、部活動紹介、保護者参加の組對抗綱引きなどが行われました。大会の最後を飾ったのは、全校生徒による演技「YELL～南阿蘇村へ～」。村へ手作りのメッセージを発信し、全員で「フレイフレー南阿蘇」と村へエールを送りました。



教室のベランダに掲げられた今年のスローガン



新校旗を掲げ入場



団ごとに堂々の入場行進



「栄光の架橋」(2年生)



100メートル徒走(3年生)



団對抗綱引き



動き回る籠をめがけて玉入れ(1年生)



赤・青・黄団對抗応援団競技



応援に熱が入ります！



全校生徒による演技「YELL～南阿蘇村へ～」

9/28 被災者に寄り添うセンターに 「地域支え合いセンター」開所

久木野総合福祉センター内に設置された、「地域支え合いセンター」の開所式が同センターで行われました。これは、村が村社会福祉協議会に委託し実施される事業で、熊本地震における被災者の孤立化を防止するための巡回訪問による見守り活動や相談支援や生活支援や、仮設団地内集会場などでサロン活動を行うもの。

式では、中山美保主任生活支援員が「被災された方々の生活再建に向けた日常生活を支えるため、被災者宅を訪問し、安否確認や話し相手になり、相談を受けることにより安心感を持っていただき、地域交流などを通して側面からお一人おひとりに寄り添いながら、支援を行います」と力強く宣誓しました。



看板を設置する中山主任生活支援員（左）と長野村長

9/16 旧村の民生安定に貢献 倉岡忠行さん（一関一）

高齢者叙勲伝達式が久木野庁舎で行われ、倉岡忠行さん（一関一）が旭日単光章を受章されました。

倉岡さんは、昭和46年から58年まで3期12年にわたり旧白水村議会議員として在職。監査委員や建設委員を歴任され、旧白水村の発展と民生の安定に貢献されたことなどが認められての受章となりました。

伝達後、ご家族の倉岡貞信さん（一関一）は、「このような章をいただき父も大変光栄に思っています。これも諸先輩方、地域の皆さま方のご支援のおかげです」と喜びを述べられました。



倉岡貞信さん（左）と長野村長

10/1 元気と笑顔で頑張ります 村内3つの保育所で運動会

9月22日から10月1日にかけて、村内3つの保育所（白水・久木野・ちょうよう）で運動会が開催されました。

10月1日に開催された白水保育所の運動会では、園児たちの元気な行進で開幕。誓いの言葉では「にじ組」の田尻翔太郎君と倉岡愛実さんが、「運動会を最後までしっかり頑張ります」と元気に述べると、園児全員で「頑張ります」と続けて述べました。

競技では、10mから80m徒走やダンスがあり、中には泣いたり、先生に手を引かれる園児もいました。一生懸命に頑張る園児たちの姿に運動会は笑いと声援で盛り上がっていました。



誓いの言葉を述べる（左から）田尻翔太郎君、倉岡愛実さん



立てない子も頑張りました（0、1歳児ダンス）



法被を羽織り力強くダンスを披露（年長児）



元気に駆け抜けた徒走（4歳児）



10/8~16 庭を彩る花々で迎えます 第7回南阿蘇・庭・めぐり 秋

個人の庭を開放する「第7回南阿蘇・庭・めぐり」が2回目となる秋に開催され、10月8日～16日の9日間村内2カ所の庭が開放されました。

今年は、開催初日に阿蘇山の中岳第一火口が噴火。来場者の減少が心配されましたが、村外からの観光客などが訪れました。

久保裕之さん(一関二)の「癒やしのガーデン subrosa」では、6月の豪雨で、一時は庭に植えてあった花が被害に遭いましたが、花を植え替えるなど懸命に復旧。バラ、ダリヤ、百日草、ケイトウなど、赤や黄色の秋らしい鮮やかな花が庭を彩っていました。



色鮮やかな花が咲き誇る「癒やしのガーデン subrosa」

10/1~14 震災に負けず芸術の秋到来 南阿蘇村・谷人たちの美術館 2016

村全体を美術館に見立てた「南阿蘇村・谷人たちの美術館」(同実行委員会)が今年も開催され、訪れた人が芸術の秋を満喫しました。

美術館は、作家の自宅やギャラリーなど村内37カ所が開放され絵画や陶芸草木染などの作品展示や体験教室も行われました。

熊本地震の影響で来場者が減少しましたが、来場者と作家が談笑する場面もあり、会場は会話にも花が咲いていました。

一関地区でステンドグラスを手作りする清永律子さんの「ステンドグラス・ギャラリーあかり」では、約40点もの色鮮やかなステンドグラスがギャラリー内に並んでいました。



手作りのステンドグラスが会場を色鮮やかに照らした「ステンドグラス・ギャラリーあかり」

10/12 戦没者の御霊へ献詠 平成28年度 戦没者追悼式

平成28年度の戦没者追悼式が、ホテルグリーンピア南阿蘇で行われ、戦没者の遺族や関係者約140人が参列しました。

英霊の御霊に捧げる「献詠」(書道吟)が、吟王流宗家大塚峰徳さんと吟道吟王流総師範 宇藤映晃さんによって披露されたあと、参列者一人一人が献花台に花を手向けました。

終わりに、遺族会代表の荒牧仁さん(第四駐在)が、「国家の安泰と肉親の幸せを念じながら生きて再びふるさとの土を踏むことなく一命を捧げられた御英霊の心情に思いをいたします」と述べられました。



献花台に花を手向ける長野村長

10/9 地域で完成 山の神保存会

熊本地震で河陰地区にある山の神の祠が崩壊し、関係集落の第七駐在(摺尾、室町、観音寺)の関係者が祠を再建し、9月下旬に完成。その「ご神入れ」と完成披露会が行われました。

この山の神は、山の恩恵に感謝した住民の皆さんたちが、大昔から山の中に祭っていたと言い伝えがあります。

祠の完成を迎えて、区長の今村さんは、「地域の皆さまに協力いただいたおかげで立派な祠が完成し、大変喜んでいきます」喜びを語られました。



祠の完成に喜びの表情を見せる関係者の皆さん